

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號四第 卷四第

行發日一月四年六正大

## 論說

Unto this Last ヲ讀ム(一).....法學博士 河上 肇

官業問題ニ就キテ(三)完.....法學博士 神戶 正雄

我取引所擔保業務ト保險事業トノ差異.....法學士 小島昌太郎

太閤檢地ノ研究.....法學士 牧野新之助

參觀交代制度ノ經濟觀(三).....法學士 本庄榮治郎

## 時事問題

支那ノ立國策ト其參戰問題.....法學博士 戶田海市

對印爲替問題.....法學博士 神戶 正雄

## 雜錄

世界金融ノ中心トシテノ倫敦ノ地位.....法學博士 神戶 正雄

續市統計所小觀.....法學博士 財部 靜治

歐米ニ於ケル勞働組合ノ近況.....法學士 山本美越乃

長野縣ノ蠶絲業.....法學士 河田 嗣郎

## 對印爲替問題

神 戶 正 雄

客臘英國が印度省證券(かうんしるびる)ノ賣出ヲ制限シタルニ就キ、日本ト印度トノ間ノ爲替ガ困難トナリ、日本ノ最重要ナル工業ノ一タル綿絲布業ノ原料タル棉花ノ供給難ノ現象ヲ生ジタ。其後幾分緩メラレタトイフコトデアアルガ、未ダ満足ナル解決ガ着カズニ居ル。下ニ聊カ之ニ關スル事情ト對策トヲ述ヘヤウ。

### (第一) 事 實

#### (一) 正常時ノ日印爲替事情

(A) 日印貿易關係 日本ハ印度ヨリ特ニ棉花ヲ多量ニ輸入シテ(一九一五年ニ一億三千九百萬圓ニ上ル)、全體上印度ニ對シテ輸入超過關係ヲ有ツテ居ル(一九一五年ニ輸入超過一億〇五百萬圓)。別ニ日本ハ印度ニ對シテ大シタ放資關係モ持タヌコトデアアルカラ、所詮此輸入超過金額ハ正貨ニテ拂フカ、他國ノ債權ヲ買ツテ拂フカノ外ナク、其モ殆ト全ク棉花代金ノ爲メデアツテ、棉花以外ノ品物ノ輸入ニ關スルハ極メテ僅小デアアル(一九一五年ニ棉花輸入一億三千九百萬圓ニ對シ、棉花以外ノ輸入僅ニ八百萬圓ニ過ギヌ)。

(B) 日印爲替方法 右主トシテ棉花ニ關スル一億圓許リノ輸入超過金額ハ從來如何ニシテ支拂

ハレタカトイフト、主トシテ倫敦ニテ發行サルル、かうん、しる、びる、ヲ、買、ツ、テ、印度ニ送り、以テ支拂ニ充テタノデアアル。(い)然ラバかうんしるびるトハ何カトイフト、此ハ在倫敦ノ印度省ガ倫敦ニテ賣出ス所ノかるかつた、ばんべー、まどらすデ支拂ハルヘキ印度政府宛爲替(1)普通電信(2)倫敦拂込日ヨリ十六日後拂(3)一覽拂)デアアル。一面カライフト、印度政府ガ印度ヨリ倫敦へ廻金スル爲メニ賣出スモノデアアル。其ハ元來、印度政府ガ印度政府及其ノ諸公共團體ニ屬スル英貨公債ノ元利拂、官吏恩給金及政府事業ニ要スル材料ノ買入代金等ノ爲メニ、政府勘定トシテ倫敦ニテ支拂フ巨額ノ資金ヲ要スル。之ヲ印度ヨリ倫敦ニ送ル爲メニ夫ノかうんしるびるヲ發行シ供給スルノデアアル。而シテ他面ニ於テ此ガ需要ハ平生頗ル多クアル。トイフノハ印度ハ平生大ナル輸出超過ヲ有シ、其概數七八億留比ニ上ル(一九一三年八億五千萬留比)。之ヲ決濟スル爲メニ三四億留比ノ金銀輸入超過(一九一三年四億四千萬留比)ノ外ニ、四億留比内外ノかうんしるびるニ依ルコトトナリ、其レデ平生ハ此證券ノ需要供給ガ調和ヲ得テ居ツタ。デ此證券ハ毎週水曜日ニ倫敦デ競賣ニ附セラレ、賣出高ハ政府ノ支拂資金ノ都合ニモ依ルガ、主トシテハ印度ノ輸出貿易并ニ金融狀態ヲ斟酌シテ決定セラレタ。而シテ此正常ナル水曜日ノ競賣以外ニモ、何時デモ需要アレバ爲替相場ヲ引上ゲテ賣出ニ應ジタ。其相場ノ引上ゲ方ハ何ウカトイヘバ、相場ガ平時ノ倫敦ヨリ孟買ヘノ金輸送點一志四片<sup>三十二分</sup>ノ五(電信)又ハ一志四片<sup>八分</sup>ノ一(倫敦拂込ヨリ十六日後拂)ニナレバ、無制限ニ賣出

シ、以テ其需要ニ應ジタノデ、平生ハ日本ノ綿花代金ノ支拂モ之ニ依ルコトヲ得タ譯デアアル。  
 (然ラバ更ラニ此かうんしるびるノ印度ニ於ケル支拂準備ハ何ウナツテ居ツタカトイフト、先ツ  
 以テ(1)印度政府ノ國庫保有金、デ之ガ支拂ヲ爲スコトトナル。其金高ハ凡ソ下ノ如キモノデアツ  
 タ。(單位百萬磅)(端數凡ヘテ切捨)

在印度	1307	1310	1311	1312	1313
在倫敦	1071	1171	1174	1174	1174
計	2378	2481	2485	2486	2487

(2) 此國庫金(印度)ニテ支拂ニ不足ヲ感ズルトキハ、倫敦ニ於ケルかうんしるびるノ賣上代金(金)ヲ  
 國庫勘定ヨリ紙幣發行準備勘定ニ繰入レ(英蘭銀行ニテ)、印度デハ此在外正貨ヲ引當テニ紙幣ヲ  
 發行シテ國庫ニ廻ハシ以テかうんしるびるノ支拂資金トスル。然ルニ此紙幣ニハ印度デ兌換ノ請  
 求ガ起ルヘキモノデアリ、隨ツテ其發行額ニ準ジテ相當ナル銀貨ヲ要スルコトトナルガ、其ニハ  
 倫敦ニ於ケル紙幣發行準備金(金)ニテ銀ヲ若干買入レテ、鑄造シ又鑄造セズシテ印度ニ送ルコト  
 トナル。試ミニ此準備金ノ内容ヲ見ルト一九一五年十一月十五日現在ニ於テ左ノ如クデアアル。(單  
 位百萬留比)

銀貨	金貨及金塊	保證準備	紙幣發行額
在印度	在英國		
1,100,000	1,100,000	1,500,000	2,100,000

(3) 此外ニ金本位制維持準備金ガアツテ、本來ハ爲替相場暴落シテ印度ヨリ金貨輸出ガ多クナリ爲メニ幣制維持ノ困難トナルガ如キ場合ニ應ズルノ目的ヲ以テ、銀貨鑄造利益及其利殖金ヲ蓄積シテ出來シタモノデアル。此ハ今ハ全部金ニナツテ居ルガ、嘗テハ一部銀デアツタコトモアル。必要トアレバ、此ニ於ケル銀ヲ夫ノかうんしるびるノ支拂ニ向ケ、又ハ此ニ於ケル金ノ一部ヲ以テ銀ヲ買上ゲテびるノ支拂ニ向ケルコトモ出來ル。試ミニ此準備金ノ一九一三年三月末日現況ヲ見ルト左ノ如クデアル。(單位百万磅)

英國銀行へ預託金	公債	短期通知貸	計	印度ノ分	合計
1,660	1,573	1,000	1,834	4,033	3,111

(二) 印爲替難ノ發生

(A) 印度省證券發行制限ノ原因 然ルニ英國政府ガ今回右證券ノ特別賣出ヲ止メ、且ツ正常賣

出タル毎週定期落札ヲ許ス高モ申込者一口金高百萬留比以上ヲ與ヘザルノ制限ヲ置イタ。其原因如何トイフト、(一) 一方此證券ノ供給ヲ平年ヨリモ一層減縮シナケレバナラヌ事情ガ起ツタ。(1) 其ハ其支拂準備ガ枯渴シタカラデアル。第一ニ國庫金殘高ガ、戰爭以來郵便貯金ノ引出ノ激増ニヨリ數億留比ヲ減ジタノガ未ダ恢復シナイコト、及ビ英本國ノ爲メ印度政府ガ南阿ノ埃及遠征軍ノ經費ノ立換拂ヲ爲シテ其ニ巨額ノ銀ヲ要シタコトノ爲メニ、大ニ減少シタ。第二ニ印度ニテびるノ支

拂ヲ爲ス爲メノ留比資金トシテ金本位制維持準備金ニテ保有セル六千萬留比ノ銀ガ、事實此支拂ニ向ケラレ、其ニテモ足ラズシテ國庫ニ於テ一千万留比ダケ土人獨立州ノ貸上金ニヨリ、其ト更ニ預金部ヨリノ支出トニモヨツテ支拂ハレタ次第デ、金本位制維持準備金ヨリ向ケラルヘキ餘裕ハ殆トナクナリ、第二ニ紙幣發行準備金モ、法定保證準備額ハ擴張シテ(保證準備ノ擴張第一回六千萬留比、最近之ニ一億二千萬留比ヲ増加シ、目下總額三億八千萬留比)餘裕ガ出來タ譯デアルガ、何分ニモ銀ガ最近一年間ニ一億留比以上モ減少シタ程デアルカラ、餘リニ之ニ依ルヲ許サヌ。其最近一年間ノ變遷ヲ示スト左ノ如クデアル。(單位千留比)

年次	銀貨	鑄造中ノ銀貨	金貨及金塊		保證準備	紙幣發行額
			在印度	在英國		
一九一五	11,150,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	11,150,000
一九一六	11,150,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	11,150,000

(2) 加之其準備モ實ハ金デハ直接ニ用ヲ爲サヌカラ、銀ニシナケレバナラヌガ、夫ノ準備金(紙幣發行、金本位制維持)ニテ銀ヲ買フコトガ困難デアル。倫敦デハ既ニ銀ノ在荷ノ大部分ヲ政府ガ買付ケタノデ此上ノ買付ハ六ツカ數イ。支那デモ既ニ印度ニ賣過ギテ(昨年中三千萬兩程印度ニ向ケ輸出)今ハ買埋メヲシヤウトシテ居ル位デアル。亞米利加モ墨西哥產銀ノ減少デ多キヲ望メナイ。殘ス所ハ印度内地デアルガ、政府ハ孟買銀市場攪亂ヲ避ル爲メ、一時此ニ於ル銀塊買取ヲ絶對

ニ爲サナカツタ程デアアル。今ハ此ニサヘ手ヲ下ダシ、全部買付ケタトイハルル。デ此上ノ買付ガ困難トイフ有様ニ在ル。(3)然ラバ印度内ニテ公債ヲ起シテ民間所持ノ銀ヲ吸收スルカトイフニ、此モ既ニ其ノ爲メ六千萬留比許募集シテ見タガ、豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ナカツタ次第デアアル。斯ノ如クニシテ唯サヘ印度省證券ノ發行ヲ減少シナケレバナラヌノニ、更ラニ(ろ)他面此證券ニ對スル需要ノ急激ナル増加ガアツテ、愈々夫ノ證券ノ發行ヲ制限セザルヲ得ザラシムルコトトナツタ。其需要増加ノ原因ハ印度ノ輸出超過ノ擴大ト印度ヘノ金銀輸入困難ノ發生トデアアル。(1)即チ印度ノ輸出超過ガ擴大スルコトトナツタノハ、特ニ其輸出貿易ノ好況ニ因ルノデアアル。詳シクイヘバ印度ニ於ケル昨年ノ綿花ノ作柄ガ良好デアツタ上ニ、其價格モ騰貴シタノデ其輸出代金ガ例年ヨリモ増加シタノト、一時輸出禁止ノ行ハレタ小麥ノ一部解禁ガアツテ、是レ亦輸出金額ヲ多カラシメタノト、輸出黃麻ノ價格ノ昂騰シタノトニ因ル。之ニ加フルニ他方綿織物輸入ノ不振ガアツテ斯クテ其輸出超過ヲ大ナラシメタノデアアル。(2)而モ此増大シタル輸出超過金額ノ外國ヨリノ支拂ガ今ハ平年ノ如クニ金銀ノ輸入ニヨツテ行ハルルコトノ難キコトノ爲メニ、愈々夫ノ證券ノ需要ヲ増大ナラシムルコトトナツタ。平年ナレバ印度ノ輸出超過金額中ノ約三四億留比ハ金銀ノ現送ニヨリ決濟サレタノニ、開戦以來ハ英國ガ英國ヨリ印度ヘノ金輸入ヲ許サナイノミナラズ、米國ヨリ印度ヘノ金輸入ヲモ差留メ、甚シキハ支那ヨリノ金輸入ヲモ禁止シタコトガアル程デアアル

(過般まゝかんだいる銀行が極小額ノ金ヲ支那ヨリ印度へ輸入シタルニ對シテサへ、同本店ハ向後之ヲ許サザル旨ノ訓令ニ接シタ)。此ハ一旦金ガ印度へ這入ルト、土人ノ爲メニ死藏セラレテ再ビ世界ノ金市場ニ出テ來ナイコトヲ恐ルルノト、特ニ米國ヨリノ輸入ヲ抑ユルノニハ、英米爲替ヲ調節スル爲メトイフ理由モ存在シテ居ル。銀ノ方ニツイテハ右ノ如キ制限ハナイガ、倫敦相場ガ孟買相場ヨリモ割高デアルカラ、輸入ガ引合ハナイ。又事實倫敦ニ於ケル銀ノ在荷ノ大部分ガ前ニモイフ如ク既ニ政府ニ買付ケラレテ、高クテ手ニ入り難イ狀勢デアル。米國ト支那トカラハ既ニ多少銀ガ印度へ往ツタガ、亞米利加モ此上多キヲ望メナイ。支那ニ至テハ前ニモイフ如クムシロ印度ニ銀ヲ賣過ギテ、今ハ買埋メヲシナケレバナラナクナツテ居ル。

(B) 印度省證券發行制限ノ影響 本證券發行制限ノ爲ニ最多ク困マルノハ(我邦ノ綿花商及綿糸紡績業者隨テ、綿織物其他ノ綿製品業者デアル。彼等特ニ紡績業者ハ其原料ノ手ニ入り難キコトノ爲メニ困マル。尤モ日本ノ紡績會社ノ多クハ此先キ半年乃至一年分位ノ原料ヲ持ツテ居ルカラ、今直グニ仕事ノ運轉上困マルトイフコトハナイ。或ハ却ツテ今印度カラ材料ガ入ツテ來ヌ爲メ、材料隨テ製品ノ内地相場ガ高クナルトイフノデ、一時利益スルトイフコトモアツテ、餘リ喧シク言ハストイフコトガアラウガ、所詮持物モ追々ニ消費シ盡シテ手薄ニナツテ來ナケレバナラス。サウナルト非常ニ困マルコトニナラナケレバナラス。(ろ)併シ之ニヨリテ困マルノハ獨リ日本側バ



カリデハナク、印度ノ農民モ困マルコトニナル。切角取ツタ綿ガ賣レナクテ困ラザルヲ得ヌ。假令彼國ニモ紡績業ガ發達シ居ルトハイヘ、急激ニ之ヲ擴張シテ餘ツタ綿ヲ消化シ盡ストイフ譯ニハ往カヌ。デアルカラ此救済問題ニツイテハ獨リ日本ノミナラズ、印度モ隨テ英國モ相當ニ盡力スヘキコトデアル。仍チ我ハ彼ト協力シテ處置スヘキデアル。

## (第二) 重 要

本問題ノ解決ハ日本ノ爲メニ重要デアル。(一)此ガ日本ノ重要工業タル綿糸布業ニ關係シ而モ此事業ガ原料ノ國內供給ノ不足トイフ一點ヲ除キテハ自然的及人的條件ニ於テ日本ニ適當ナルガ故デアル。(二)加之棉花及綿糸布業ハ軍需品ノ關係モアル。(三)ソシテ此日本ノ綿糸業ガ最多ク印度綿ニ依頼シ來ツテ居リ、隨テ爲替難ノ爲メニ印度綿ガ來ナクナルト、日本綿糸業ガ非常ニ困ラナクレバナラヌ事情ニ在ル。其ノ如何ニ日本ノ綿糸業ガ印度綿ニ係ルカヲ見ルト、日本ノ内地ノ綿産額ハ全クイフニ足ラナイモノデ、綿糸業ノ原料ハ殆ント専ラ輸入ニ待ツガ、一九一五年ノ輸入棉花ノ中(單位百萬圓)

印度ヨリ	米國ヨリ	支那ヨリ	朝鮮ヨリ	其他ヨリ	計
一、五	五、五	一、五	一、一	七、七	一七、三

デ、印度棉花ガ全體ノ六割四分ヲ占メテ居ルコトヲ見ル。日本ノ綿糸工業ハ實ニ此印度綿トイフ

比較的低廉ナル綿花ニ他國ノ優等綿ヲ巧ミニ混綿シテ割合ニ良キ絲ヲ製出シテ居ル。日本ノ工業ガ永イ間工夫シテ此原料ヲ使イ慣レテ來テ居ル以上ハ、又之ニヨツテ特ニ有利ナル事情ニテ供給シテ居ル以上ハ、即チ其レデ技術ガ定マリ顧客ガ出來テ居ル以上ハ、一朝ニシテ此印度綿ヲ棄テテ他種ノ綿ニ移ル譯ニハ往カス。デ何トシテモ印度トノ間ノ爲替難ヲ解イテヤラナケレバナラス。少クトモ日本ノ綿糸布業ノ立行クヤウニシテヤラナケレバナラス。

### (第三) 對 策

(一) 應急策 本問題解決ノ應急策トシテハ先ツ

(A) 銀行的處置 ヲ薦ムル。其ニモ金銀正貨ヲ動かサズシテ行フノト之ヲ動かシテ行フノトガアル。(イ)前者即チ正貨ヲ動かサズシテ行フ方策ハ、日本ノ對米債權即チ紐育ニ於ケル日本ノ資金ヲ紐育デ英國勘定ニ拂込ミ、其代リ金ヲ印度ニテ日本ノ勘定ニ受入ルルニ在ル。即チ其レダケ倫敦ニテ印度省證券ヲ日本ニ渡シ、其印度ニ於ケル支拂準備ヲ充實スル爲メニ、印度政府ニ於テ國內デ公債ヲ募集シ又ハ租稅ヲ増徴スル。其ヲ英本國政府ガ印度政府ヨリ借入ルルコトトスルカ、又ハ印度政府ガ戰費ノ負擔ニ任ズルモノトシテ英本國政府ニ獻納スル。其レデ解決サルル。日本ノ紐育ニ在ル資金ヲ英國ノ勘定ニ移スコトハ、日本ノ對米債權ガ益々増加スル傾ガアツテ、英國ノ

其ハ却ツテ益々減少ノ勢ヲモツ所ユヘ、日英双方ニ取り好都合デアル。特ニ英國ニトリテハ英國ノ戰時財政上將タ英米爲替調節上有利デアル。又英國トシテハ此際印度ニテ公債ヲ起スコトガ出來、又ハ増稅ヲ行フコトガ出來レバ、戰時財政上好都合デアル。ソシテ同時ニ斯カル方法ニヨツテ爲替難ガ解ケ、印度輸出ガ行ハレ易クナレバ、印度人モ満足デアラウシ、日本モ喜ブコトトナル。(1)尤モ此印度ニ於ケル公債ノ發行ハ昨年失敗シタコトモアツテ不安心デアル。成程前回ノハ單純ナル軍事公債デアツタガ、此度ノハ其爲替調節ノ爲メデ、印度人自身ノ直接利益トモナルカラ、此ニハ應募者ガ多イカモ知レヌガ、何分公債ハ人民ノ自由意思ニ出ヅルモノ故、必スシモ成功スルト限ラヌ。(2)デ夫ノ資金吸收ノ爲メニハ公債ヨリモムシロ強制的ナル租稅ノ方ガ確カデア。此方ノミニ依ルカ、彼ト此トノ併行ニ依ルコトヲ以テ勸ムヘシトスル。印度デハ此三月ニ公債募集ヲスルコトトナツタ。初メニハ十億圓ト傳エラレタガ、其後ノ報道デハ一定條件ヲ示シテ金額無制限ニテ公募スルトイフコトデア。最近ニハ此上ニ又十億圓ノ増稅ガ企テラレテ居ルトイフ。此二ノモノガ成功シタ際ニハ、夫ノかうんしるびるノ印度ニ於ル準備ガ出來テ印度證券發行制限解除ガ行ハレ得ルコトトナルデアラウ。尤モ増稅ノ方ハ一面日本ノ貿易特ニ綿製品(紡績糸以外)ノ輸出及黃麻ノ輸入ニ打撃ヲ與フルコトニハナルガ、其モ英本國トモ對等待遇ニ依ルモノデアリ、更ニ此爲替調節ノ效果モアラウカラ、大體日本ニ取り有利トイフヲ妨ゲナイ。(ろ)次

ニ金銀ヲ動かシテ行フ方策トシテ、在英ノ日本ノ正貨タル金ヲ印度ニ移スコトハ英國ノ好マザル所デアラウシ、途上ノ危険モ多キユヘ勸メラレナイ。日本ノ内地及米國ニ於ケル金銀ヲ印度ニ送ルコトニハ途上ノ危険ハ少イガ、銀ヲ我對印支拂ニ足ル程多ク集メテ行クコトハ困難デアル。金ナラバ持行クダケノモノハ十分ニ在ルガ、金ハ英國ガ其印度ニ入ルノヲ好マストイフノデアルカラ、之ヲ印度ニ持行クコトヲ英國ヲシテ承認セシメナケレバナラス。此ガ一ノ困難デアル。此ハ萬已ムヲ得ザル事情ニ在ル以上、英國政府ヲシテ認メシムルコトモ或ハ出來ヤウガ、此金ヲ印度ニ持行キタル上ニテ、土民ノ持居ル銀ト交換シナケレバナラスガ、此ガ行ハルルヤ否ヤ其成績ガ疑ハシイ。加之此ニハ運賃保險料ノ負擔モ掛ルコト故、出來ルナラバ前ノ(い)ノ方法ノ方ガ望マシイ。尤モ既ニ應急ノ處置トシテ到底(い)ノ方法ノ成績ヲ待ツ譯ニ往カヌノデ、正金銀行ニ於テ(ろ)ニ依リ一千萬圓許リモ印度ニ現送金シタト傳ユラレテ居ル。(い)ノ方法ノ成績ヲ待ツテ然ル後ハ此(ろ)ノ方法ヲ止メル積リデアラウ。尙ホ印度ニ銀ヲ持行クトシテモ、支那ニ在ル銀ダケハ成ルタケ持行カスコトガ日本ノ國民經濟ノ利益上望マシイ。既ニ支那カラハ印度ヘ銀ヲ賣過ギテ(昨年中ニ三三萬兩モ支那ヨリ印度ヘ銀ガ流出シタトイフ)居ツテ、爲メニ支那ハ金融逼迫シ、日本ノ對支輸出ノ障礙トナツテ居ル。此上支那ノ銀ヲ持出シテハ愈々惡影響ヲ受ケナケレバナラス。獨リ支那ノ銀バカリデハナイ、印度以外ノ何レノ地ノ銀デモ之ヲ集メ行クコトハ銀ノ相場ヲ益々上騰ニ向ハシ

ムルモノデ、其結果矢張り支那ノ銀ノ缺乏ヲ促シ、益々日本ノ貿易ヲ不良ニ導ク虞ガアル。デ印度ニ持行クトシテハ努メテ銀ヲ避クルコトヲ要スル。

(B) 商業的處置

他ノ一面此際ニ對印輸出ヲ獎勵助成スルコトニヨツテ爲替ノ均衡ヲ得セシムルコトガ肝要デアル。由來日本ハ印度ニ對シテハ常ニ大超入デアル。斯ノ如キハ爲替上ノミナラズ交通運輸上ニモ不利デアル。是非之ヲ改メナケレバナラヌガ、今日ノ如ク歐羅巴特ニ英國ト印度トノ交通難ノ時ハ日本品ノ印度侵入ニハ絶好ノ時機デアル。此處デ十分信用ヲ博シテ置ケバ、目下ノ困難ヲ除クコトノ出來ルノミナラズ、永遠ニ亘リテモ日本ノ利益デアル。切角努力シテ印度輸出ヲ進メナケレバナラヌ。唯々目下ハ何處ニ向ツテモ同ジテアルガ、印度ニ向ツテモ矢張り船腹不足デ、滯貨ガ澤山アルトイフ。ガ他ノ爲替ノ自由ニ行ハルル處ハ兎ニ角、印度ノ如ク爲替難ノ處ニ向テハ、特ニ十分船腹ヲ提供シテ其輸出ヲ便利ニシ、以テ爲替ノ調節ヲ期シナケレバナラス。

(二) 根治策

應急ノ處ハ其デ間ニ合フガ、此種ノ困難ハ復タ來ル。特ニ綿糸布業者ノ原料獲得難トイフコトハ、印度ノ棉花輸出禁止又ハ制限(輸出税)等ノ形式ニテモ來リ得ル。デ此等ヲ根本的ニ救治スルノニハ

(A) 日本單獨ニテ爲スヘキ策

トシテハ先ツ(イ)印度外ノ方面ニ於テ我が棉花ノ供給地ヲ大ニ開

拓スルコトニ全精力ヲ出サナケレバナラス。從來ノ如ク印度偏重トスルノハ危險至極デアアル。是非之ヲ分散シナケレバナラス。特ニ支那綿花ノ利用ヲ進メテ、少クトモ印度綿花ノ利用ヲ少クスル方ニ向ケルコトガ得策デアアル。一體支那ノ綿産額ハ印度ノ綿産額ニ比シテ甚シク劣ル譯デナク、加之支那ニ於ケル綿耕地モ尙ホ擴張ノ餘地ガ多ク、品種改良ノ見込モ大イカラ、日本ノ綿糸布業者共同ノ大問題トシテ、此支那綿花ノ開拓改善ニ力ヲ用ヰナケレバナラス。民間當業者ヲ中心トシテ政府モ助力シテ計畫シナケレバナラス。試ミニ世界ノ最近一九一四—五年ノ産額ヲ分析スルト左ノ如クデアツテ、印支二國ノ産額ハ略ホ匹敵シテ居ル。(單位百萬俵)

米國	印度	支那	埃及	露國	其他	計
1,785	510	410	1,115	1,115	1,115	5,940

更ラニ又米綿花ヲ一層多ク使用スル方ニ向クルノモ良イ。日本ノ綿糸業ハ目下米綿ヲ全綿需要ノ四分一シカ使ツテ居ラスガ、モツト此米綿ヲ使フコトニシナケレバナラス。日本ノ綿糸業ハ支那綿糸業ノ發達ニ伴ヒテ、益々優等ナル米綿ヲ多ク使フコトニ向ハザルベカラザルノ運命ニ在ル。之ト共ニ他方印度産ノ劣等綿ノ供給ニツイテ脅カサレツツアル所ノ危險ヲ斟酌シテ、漸次米綿ヲ多ク使用スル方ニ向クノ必要モアル。又益々綿糸供給ヨリ進デ綿布類ノ供給ニ力ヲ用ユルノ外ハナイ。更ラニ支那綿ノ米綿化事業ヲ完成シ、綿糸布技術ヲ改良スルコトヲ忽ニシテハナラヌ。(る)斯クノ如クニシテ印度外ノ方面ニ就イテ畫策スル他ノ一面ニ於テ、印度ニ向ツテモ(1)日本ノ輸

出、進、メ、ル、コトヲ計ル。應急策トシテノミナラズ、永久策トシテモ之ヲ計ラナケレバナラス、其ニハ先ツ此市場ノ研究ノ爲メニ有能ノ商務官ヲ派遣シ、更ニ此市場ニ往ク商品ニツキ嚴重ナル輸出検査ヲ行フテ信用ヲ維持シナケレバナラス。特ニ此地ニ於ケル關稅ニハ最多クノ注意ヲ要スル。今度ノ印度ニ於ケル關稅引上ハ母國品ニモ日本品ニモ對等ノ待遇アル由ナレバ、事情已ムラ得ザルコトトイヘルニシテモ、既ニ此ニハ英本國ニテ盛ナル反對アル所デアルガ、若モ此反對ガ認メラレテ、英本國品ニハ日本品等ト區別シテ低稅率ヲ適用スル等ノコトニデモナツテハ大變デアル。又戰爭中ハ英國ガ日本ニ遠慮スルトシテモ、戰後ニナリテ果シテ印度ノ輸入ニツイテ母國品ト日本品等トノ間ニ差別待遇ヲシナイデアラウカ疑ハシイ。日本トシテハ此問題ニ特別ノ注意ヲ拂テ斯カル差等待遇ヲ受ケザルヤウ用意ヲ怠ツテハナラス。(2)更ニ又印度ニ日本ノ銀行ノ支店ヲ増加シ、印度銀行ノ日本ニ支店ヲ置クコトニモ便利ヲ計ツテ、兩國ノ直接ノ爲替關係ヲ附ケルコトガ望マシイ。印度ハ英國ノ殖民地デアルカラ、對印爲替ガ倫敦ヲ經由スルコトトナルノモ己ムヲ得ザル勢テハアツタガ、然リトテ此ノミニ倚賴スルノ危險ナルコトハ現在遭遇シツツアル通リデアアルカラ、矢張り別ニ此國ト直接爲替ノ途ヲ開イテ置クコトガ便利デアアル。平生之ヲ以テ倫敦經由ノ其ノ補充トシ、一朝事アルトキハ之ヲシテ大ニ活動ノ手ヲ擴ゲシムルコトトシナケレバナラス。

(B) 國際的協力ニ待ツヘキ策　トシテハ現ニ文明諸國ニテ使用シツツアル所ノ(イ)補助貨ノ銀ノ

使用ヲ節スルコトデアル。前記ノ爲替難ノ一原因モ畢竟ハ銀ノ缺乏ニアルカラ、之ガ需要ヲ減少スル爲メ、補助貨タル銀貨ノ不純分ヲ増加シタラバ如何ト思フ。本位貨デナイカラ此ガ品位ヲ下シテモ別ニ不都合ナル影響ヲ生ズルコトハナイ。各國相率テ之ヲ行ヘバ、銀ノ需要ヲ減ズルニ於テ大ニ有功デアラウ。近頃此戰爭ニヨリ促サレテあるみにうむ貨、鐵貨等モ出來タガ、今日ノ銀貨ノ代リトシテハ物足りナイ。矢張り銀貨ノ不純分増加位ガ最適當ノヤウデアル。特ニ日本ノ如キデハ銀貨ヲ一層小クスルコトモ亦實行スヘキデアル、或ハ斯ノ如クニシテ銀需要ヲ減少シテハ戰後ハ却ツテ銀ノ下落ガ著シクナツテ、隨テ日本ガ銀貨國トノ貿易上不利ヲ被ムルコトナラザルカトノ心配モアラウガ、此大戰後ニハ各交戰國トモ紙幣ノ回收ガ容易デナク、隨テハ補助貨タル銀貨ノ需要モ多カルヘキ勢ニアルカラ、却ツテ右ノ如キ銀貨ノ不純分増加デモ行ハナケレバ、矢張り銀ノ高イノデ困マラナケレバナラヌ事情ニ在ル。デアルカラ右ノ如キコトヲ行フテモ大シタ不良ノ結果ハアルマイト思フ。(る次ニハ銀騰貴ノ一主要原因タル墨西哥内亂ノ鎮定ヲ爲スコトモ望マシイガ、此方ハ實行難ノ問題デアルカラ。暫ラク成行ニ任カスノ外ハナカラウ。